山形大学

2018年度 行動計画

Yamagata University
Annual Plan 2018

Mission

何を成すために

社会にある役割・

- 。地域創生
- 。次世代形成
- 。多文化共生

山形大学 Yamagata University

5つの基本理念

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、次の5つの基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら、地域変革のエンジンとして、キラリと光る存在感のある大学を目指す。

- 。**学**生教育を中心とする大学創り
- 。豊かな人間性と高い専門性の育成
- 。「知」の創造

3つの**使**弱

- 。地域創生及び国際社会との連携
- 。不断の自己改革

何を為すのか

Fundamental Principles

をあるが、半数



「山形大学で学んで本当に良かった。」 そう言ってもらえることが

私たちの願いです。

山形大学長

小山清人

KOYAMA Kiyohito

2018年度 (平成30年度) の行動計画として「Annual Plan 2018」を策定しましたので、ここに公表します。

昨年6月、国立大学法人の第2期中期目標期間(22~27年度)の業務の実績に関する評価が公表され、山形大学は高い評価を得ました。教職員一人一人の努力が実った結果だと大変嬉しく思っています。今年は、第3期中期目標期間の3年目を迎えます。これまでの2年間は大変順調に進んできています。計画達成に向けて引き続き努力してまいります。

今、大学は大きな転換期にあります。18歳人口が減少期に入る「2018年問題」が現実となってきています。現在、本学の学部学生の数は7,500名。そのうちの7割は、東北出身です。予測では、東北における18歳人口は、今後10年間で2割減少すると言われています。国立大学といえども、学生が必ずきてくれる時代ではもうありません。

この転換期において、山形大学が社会に選ばれる大学になるには何をすべきか。それは、しっかりとした質の高い教育を学生に提供すること。そして、その教育を受けた学生をしっかりと社会に送り出すことです。

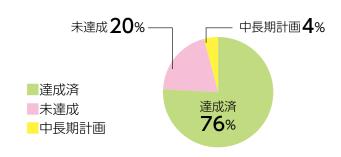
そのためには、教える側の熱意が不可欠であることはもちろんですが、それ以上に組織として教育に取り組むことが重要になります。今、学生に何を学んで、何を身につけてもらうかを、山形大学が組織として議論し、大学全体で学生を教育することが大切なのです。

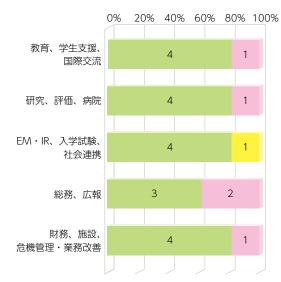
めまぐるしい変化を遂げる現代社会において、卒業生が しっかりと活躍する姿こそ、我々の誇りです。そして、学生 にとっても「山形大学で学んだ」という誇りを感じていただ けるような母校を、学生とともに常に成長し続ける大学を 創っていきたいと考えています。

今後とも、本学活動へのご支援を宜しくお願いいたします。



Annual Plan 2017 の達成状況





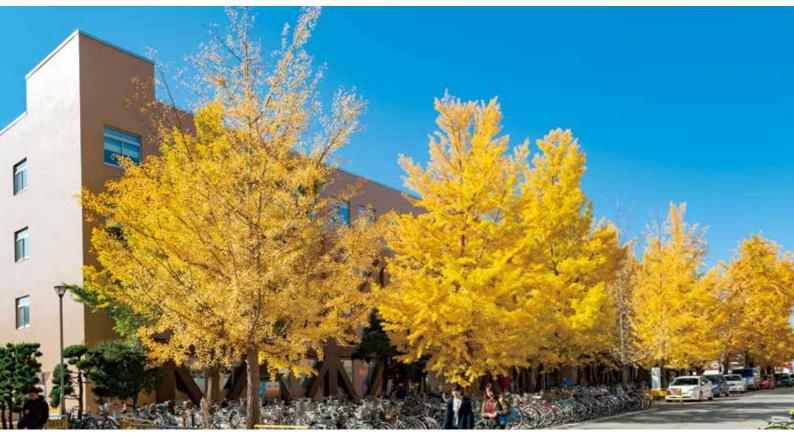
Yamagata University Annual Plan 2018











CONTENTS **E**





担当理事:安田弘法 副学長

06

研 究 価 評 院 病



担当理事・久保田 功

07

EM · IR 入学試験 社会連携



^{担当理事・}大場好弘 副学長

80

総 務 広 報



担当理事· 阿部宏慈 副学長

09

財務 施 危機管理・業務改善



担当理事・小島浩孝 副学長

10



教 育 学生支援 国際交流

◎基本方針

教養教育と専門教育を連動させた「新基盤教育」を基に学士課程教育の体系化と、大学院課程教育の充実・強化を図り、知・徳・体の調和がとれ、地域を創生し、多文化共生社会でも活躍する次世代形成の志ある人材を育成します。また、学生のニーズを的確にとらえて、学生生活が充実するよう手厚い支援を実施します。



担当理事·副学長 安田弘法 YASUDA Hironori

2018年度 行動計画



自らの学びと振り返りの習慣を身に付ける基盤力テストを更に充実させるため、基盤力テストの課題の抽出とその対応を通じ、基盤力テストの更なる深化を図ります。



高度な人間力を育成し、国際通用性を高めるため、「フロンティア有機材料システム創成フレックス大学院」で確立した実践的グローバル人材育成プログラムの内容等を検討し、各研究科の教育に反映させるための取組を進めます。



学生が心身の健康を保持し、充実した大学生活を過ごすため、キャリア教育等での「ストレス社会の生き方」の開講、ピアサポート制度の立ち上げ、相談体制の充実と相談窓口の周知等を行い、就学に係るきめ細かな指導を含めた手厚い支援を実施します。



日本人学生と留学生の交流を活発にし、日本人学生に多文化共生に関する意識を醸成させるため、日本人学生と留学生との交流イベント等を10件程度実施します。



多文化共生を理解し、海外でも活躍できる人材育成を加速させるため、短期及び長期海外派遣制度を充実させ、海外派遣経験者や海外協定校との交流学生数を250名程度に増加させます。



評価 病院

◎基本方針

世界をリードする研究・診療を実施するとともに、 山形大学の更なる発展に資するため、厳格な自己評 価を行います。



担当理事・副学長 久保田 **KUBOTA** Isao

2018年度 行動計画



科研費申請について、各キャンパスの理事特別補佐と連携し、継続課題を含め、常勤教員 (教授、准教授、講師、助教及び助手)の申請率100%を目指します。



平成30年度から施行する「山形大学における研究体制の整備に関する規程」に基づき、研 究ディレクターと連携し、YU-COE(S)のような山形大学を代表する研究拠点の新設 を目指します。



平成31年度に独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から大学機関別認証評価を受ける に当たり、重点評価項目に定められている「内部質保証に関すること」を中心に自己点検・ 評価を実施し、自己評価書の作成に向けた準備を行います。



ゲノム解析に基づくオーダーメイド医療を推進するため、ゲノム病院化を図ります。



東北初の重粒子線治療装置の2020年春の治療開始を目指して、着実に整備を進めます。



EM·IR 入学試験 社会連携

◎基本方針

戦略的な入試広報活動による志願者確保、大学の 諸活動データの収集・分析による大学の意思決定支 援及び研究成果の社会還元による地域貢献に取り組 みます。



担当理事·副学長 大場好弘 OHBA Yoshihiro

2018年度 行動計画

PLAN 1

高校生、保護者、高校教員ごとに本学の強み、特色、入試方法等を説明するため、 説明会、相談会、講演等を実施します。また、志願先決定に影響力のある高校教員に 対しては、アドミッション教員による高校訪問(550校以上)を実施します。これら の事業を実施して志願者増を目指します。

PLAN 2

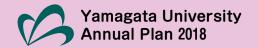
入学志願者の利便性の向上を図るとともに、願書受付時の作業効率を向上させるため、インターネット出願に向けた準備を行います。

PLAN 3

学内のみならず、学校基本調査等の学外データを活用し、本学の教育、研究、社会 貢献等に関する実態把握につながる新たなBI Reports (Business Intelligence Reports:データを動的に可視化したレポート)を5件以上作成します。また、次世 代形成・評価開発機構のIR部門に導入したアンケートシステムを活用し、学内各所 の要望に基づくアンケートの実施とその分析を1件以上支援します。



地域創生に貢献するため「産学官連携推進本部」と「各キャンパス」が連携し、産業界等からの依頼に基づく学術指導の推進及び研究成果の社会実装に向け、大型研究プロジェクト(1,000万円以上)の獲得等を5件以上、また、研究成果を活かした山形大学発ベンチャーの設立等を2件以上支援します。



総務 広 報

◎基本方針

学長を中心として効率的な大学経営を更に推進し ます。また、多様な人材を育成するための人事制度 及び教職員が能力を発揮できる職場環境を整備する とともに、ワーク・ライフ・バランスに配慮し、ダ イバーシティ環境の構築を進めます。さらに、情報 発信の多様化と国際化を推進します。



担当理事・副学長 部宏慈 冏 ABE Koji

2018年度 行動計画

PLAN

事務職員の更なる人材育成の充実を図るため、現在のキャリアマップの見直しを行い、受 講が必須となる研修及び選択となる研修に区分するとともに、平成31年度から平成33年度ま での3年間の研修実施計画を作成する等、体系的な研修体制を整備します。

また、継続雇用職員、非常勤職員の事務体制の一元化を実現し、各人の能力を最大限発揮 できるよう、適正な人員配置に努めます。

PLAN

教職員及び学生を対象に、法令遵守への理解増進及びコンプライアンスへの認識高揚を図る ため、全学において教育研修を年2回以上開催し、各部局においても実態に即した事象別の教 育研修の実施を促すとともに、潜在するリスク及びその対応を共有し、意識の向上に努めます。

PLAN

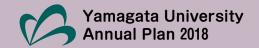
「山形大学広報戦略」に基づき、動画を活用して、紙媒体、Web媒体、SNSなど、複 数メディアを連携させ、戦略的なメディアミクスを展開します。また、毎月の学長記者会見 を軸としたプレスリリースを継続して行い、メディア採択率60%を目指します。

PLAN

山形大学基金について皆様からより一層の御理解・御支援をいただけるよう丁寧に募金活 動を展開し基金の拡充を図り、それを学生支援(修学、サークル活動等)、教育研究支援、 国際交流支援等の事業の更なる充実に繋げていきます。 【募金活動計画額:3,000万円】

PLAN

女性活躍の一層の推進を図るため、教職員のワーク・ライフ・バランスの実態を把握し、 改善に努めます。また、ダイバーシティのネットワークを推進するため、管理職研修やシン ポジウムを開催します。



財務 施設 危機管理·業務改善

◎基本方針

教育・研究・診療及び社会貢献など、本学の役割 を確実に果たしていくために、効率的、効果的及び 健全な財務運営を目指すとともに、本学の理念に相 応しいキャンパス環境の整備充実を計画的・重点的 に推進します。また、業務の見直し及び改善を不断 に推進します。



担当理事·副学長 小島浩孝 KOJIMA Hirotaka

2018年度 行動計画



平成27年度に「新たな収入の増を考えるプロジェクトチーム」が提言した「山 形大学自己収入増加に向けた提案書」の取組を推進させ、自立的かつ持続的な経 営を行うために7,000万円以上の自己収入の増を図ります。



「効率的、効果的な財務運営」に資するため、会計関係諸規則・マニュアル等を整理し、現行で50以上ある会計関係諸規則を20程度に減らします。



「インフラ長寿命化計画(行動計画)」に基づき、平成32年度までに施設ごとの長寿命化計画を策定することとしており、平成30年度は全施設の老朽化等の進行状況の調査を完了します。



全事務組織で「山形大学労働生産性向上プロジェクト」を実施し、全課全室の取組を共有しながら、各課各室において1件以上の業務の見直し・改善を行うとともに、昨年度新たに導入した電子決裁、ペーパーレスのシステムを推進・徹底し、超過勤務手当の削減(過去3年の平均10%減)等を図ります。

山形大学は、4つのキャンパス と1つのバーチャルキャンパス を教育研究のフィールドとする 200

小白川キャンパス(山形市)

人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部



やまがた天文台の愛称を「ニクニドームやまがた」に。 本学初のネーミングライツ契約。

エリアキャンパスもがみ(新庄市)



最上地域の方々と連携して実施する 地域体験型講義

山形大学

飯田キャンパス(山形市)

医学部



米沢市からの委託を受け、検診者データ から塩分摂取量と疾患との関係を分析

鶴岡キャンパス(鶴岡市)



食料自給圏(スマート・テロワール)形成 による成果物 (ハム等) を試食販売

米沢キャンパス(米沢市)

丁学部



基礎研究から実用化まで 世界をリードする有機EL研究



Yamagata University Annual Plan 2018

アニュアルプランは毎年度達成状況を検証します。 ご意見・ご要望は、下記までお願いします。

【編集発行】山形大学役員会

【お問い合わせ先】山形大学企画部企画課 〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12

Tel: 023-628-4190 Fax: 023-628-4849 e-mail: kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp 【ホームページ】 http://www.yamagata-u.ac.jp

